

---

# 大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)

TEL 075-753-3013

---

数学分野 Math-Sci Discを購入して

堤 豪 範

( 京都大学数理解析研究所 )

## 1. はじめに

昨年、ある研究者からNACSIS—IRのMath-Sciの検索をたのまれ、「もっと早く結果が出ないのか」と催促された。「先生、冊子体と比べれば随分早いと思いますが」と言ってみたものの、立ち上がりまで多少時間がかかるし、こちらもそんなに慣れているわけではないので、早いとは言えないのは確かである。その研究者は ICM '90 (国際数学者会議) での CD-ROM デモンストレーションをみて、操作が簡単で、結果が早い事を感じ、オンライン検索はなんとモタモタしているのだろうと思ったようである。その事がずうーと頭にあったのと、予算的チャンスに恵まれたこともあって、図書室で数学分野の CD-ROM を購入することが出来た。ここで、数学分野 Math-Sci Disc について、その特徴、内容、検索例等を紹介し、感じたことを述べたいと思う。

## 2. CD-ROM版 Mathematical Reviews

Math-Sci Disc は数学分野の抄録誌 Mathematical Reviews(MR) のCD-ROM版である。AMS(アメリカ数学会) 刊行の MR は純粋数学を中心に物理学、工学、コンピュータ科学など雑誌1600誌、図書1300点、会議録500点その他学位論文が収録されている世界的な数学の抄録誌である。月刊で、本体の他に著者、件名、キー索引があり、10年分ともなると、かなりの書架面積が占められ、最近の書庫不足から、スペースに困っている代物である。ところが、CD-ROM版では、10年分がたった12cmのレコード板 2枚である。又、MRの他にCurrent Mathematical Publications(CMP) も入っており、20万件以上の情報が収録されている。年 2回更新で、価格は62万円。買い取りではなく、新しいレコードが届けば古いものは返却しなければならない。

## 3. 特徴

操作はいたって簡単である。電源を入れる。ドライブにレコード板を入れる。ファイル名を打つ。そして、著者名や論文名のキーワードを打つと検索できる。NACSIS-IR 同様、

論理積，論理和の他，withやnearを使って，よりの確な検索が出来るようになっている。その他，主題分類コード，Descriptors，Review Text，TEX コードからそれぞれ検索できる。分類コードは論文の主要な項目や論文と関連した項目など61項目から成っている。たとえばGeometryは51で，検索する場合はpc=51 とする。Descriptors は主題分類コードの意味を表している語や句を用いてgeometry in deと検索する。MRレコードにはレビューや抄録が含まれているが，Subfile や Review Typeを使って主題検索を行うことができる。つまり，一旦検索したレビューや抄録の中の語をキーとして検索できる。TEX search はAMS が使っている TEXコードで検索できる。以上が Math-Sci Discがもっている大きな特徴である。

#### 4. レコードの内容

検索する場合，著者名やキーワードの後に in フィールド名とすればよい。主なフィールド名の内容は次のようになる。

ab	抄録 (CMPは抄録はない。例: tangent vector in ab)
au	著者 (ハイフオンを使用。例: knuth-d-e in au 編者edも同様)
cmp	CMP の Vol./ issue
ct	Contributor
de	Descriptors
dt	Document Type ( 図書, 雑誌, 翻訳本, 会議録等。例:dt=book, dt=journal)
ed	編者
in	Institution (Institution code, ful name, addressが検索)
is	ISSN / ISBN (ハイフオン使用)
jn	雑誌名 (雑誌名の単語と単語の間にハイフオンを使用。略語も可)
la	言語
mr	Mathematical Reviews(MR)番号
mri	MR Issue (MR の出版年から。例: 1988年 4月の出版— 89a in mri)
publ	出版社
py	出版年 (—, <=, >= を使用。例: 1986年以後 py>=1986)
pc,sc	分類
re	Reviewer
se	シリーズ名 (シリーズタイトル 又は シリーズ名の略)
ta	Total Authors (著者, 編者等を同時に検索)
ti	Title (英語, 英訳されたもの)
tic	Collection Title (Collection, 会議録タイトル等)
tt	Total Title (Title, Collection Title の分野から同時に検索)

## 5. 検索例

Donald Knuthの論文リスト (Total Authorを用いて検索。kunth-donald in ta)  
Functional Analysis に関する1988年以後の論文 (分類コード, 出版年, deを用いて検索。(pc=46 or sc=46) and py>=1988 又は functional analysis in de and py>=1988 )

Dr. Maugin による ピエゾ電気 (piezoelectricity) についてレビューした論文 (piezoelectricity and maugin in re).

分類 differential geometry の中の Hyperbands についての抄録

(分類コード differential geometryは 53 。pc=53 and hyperbands in ab 又は (classical differential geometry in de) and hyperbands in ab)

## 6. おわりに

数学分野の研究者の重要情報源を重要度の高い順にならべてみると(1) 雑誌 (2) 研究者間のディスカッション (3) プレプリント (4) 図書 となっている。又、最新の情報を収集する際にどのような情報源の中からアクセスするかは、(1)他の研究者とのディスカッション (2) プレプリント (3) 学会等の報告書、会議録 (4) 私的なコミュニケーション等からであり、以外と索引、抄録誌やオンライン等の各種データベースから求めるのは順位が低いようである。ところが、図書館サービスとして電子メディアを利用できるなら、新着雑誌のコンテンツや抄録を必要とするという意見は少なくない。(1990年度京大附属図書館アンケート調査から) ただ、データベースの利用上で問題にされるのが起動やコマンド操作がわずらわしいという意見がかなり多いし、操作が簡単であることが最も強く求められている。このことからみて、まさに CD-ROM は最適なものと言えるのではないだろうか。操作が簡単、検索料がいらぬ、時間を気にしなくてもよい等利用者自身が気軽に出来る。主題分野がはっきりしている部局図書室や研究所の図書室にとって、常時、最もよく利用している索引誌や抄録誌は、これらに対応した CD-ROM を使う事によって更に便利なものになる。将来、この種の機器類が、もっとコンパクトになり、低価格なものになるであろう。CD-ROM を購入して、2枚の小さいレコード板がいろいろなことを考えさせてくれた。

## 参考文献

工学部図書室ニュース No.7 京都大学工学部 1989

Quik Reference Card : MathSci Disc Silver Platter 1990

駆け出しライブラリアンのぶろーくんエッセイ(3)

## 授業発表企画「EARTH COMMUNICATION」

京都橘女子大学 図書館

小川 晋 司

90年の年の瀬も迫ったある日のこと。元図書館にいたK氏からおもしろい話があった。E学科のアメリカ人(といっても日系人なので見かけは日本人と変わらない)のネイティブ・スピーカ(英語の・・・)のM先生が授業の成果の発表のための企画をやりたいという。そのための展示企画の部分を図書館でやってくれないか?という内容だった。

さっそくM先生の話聞いてみた。学生の英語の作文能力を高めるためのこの授業のなかで、M先生と学生たちは、環境問題をテーマとして、海外の環境保護団体や企業、学校などと、手紙のやりとりをしたり、資料を集めたりした。それを展示して学内外の人々にアピールしたいということだった。

面白いと思ったのは、先生のアイデア。例えば、キャンパスで集めた空缶や、学食で使われた割り箸でオブジェをつくりたいとか、日本の水がどんなに汚染されているかを知るために、実際に学生が自分の住んでいるところの飲み水を持ち寄って(?)飲み比べてもらう「水のコンテスト」。そして日本の環境保護団体に所属するアメリカ人の、日本語による講演etc...

この企画の展示を、図書館のブラウジング・コーナーで行なうことを中心として、M先生、先生の授業の学生、図書館の共同作業が始まった。

その年の春「BRITAIN TODAY」(図書館ミニ企画)に使われた空間が、今度は「EARTH COMMUNICATION」という名の環境問題に関する展示企画(授業発表企画)として使われることになったわけだ。



準備は、先生と学生が英語による打ち合せ。学生同士や図書館が入るときは、日本語で・・・と楽しくすすめられ、幕開けの前日には、深夜にまでおよんだ。

展示は「熱帯雨林」、「ゴミ」、「野性動物」の3つのコーナーにまとめられ、天井から吊された大きなゴミのオブジェがひとときわ人目を引いた。

このような授業とタイアップした図書館活動、をどんどん頼出?していきたいと思っている。